

令和5年度  
学校自己評価報告書

令和6年6月14日  
学校法人高澤学園  
創形美術学校

## 目次

1. 学校の教育目標
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
3. 評価項目の達成及び取組状況
  - (1) 教育理念・目標
  - (2) 学校運営
  - (3) 教育活動
  - (4) 学修成果
  - (5) 学生支援
  - (6) 教育環境
  - (7) 学生受入募集
  - (8) 財務
  - (9) 法令遵守
  - (10) 社会貢献・地域貢献
  - (11) 国際交流
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
  - (1) 教育評価
  - (2) 財務評価
  - (3) 自己評価
5. 学校自己評価委員の評価結果について

### 1. 学校の教育目標

本校は広く美術造形・デザイン全般に関する高度な学理と技能の教授、あわせてグローバルな社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れたクリエイターを育成する。

それによって日本文化の発展に貢献することを目的とする。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 入学応募、入学試験の改革の継続
- (2) 就職支援の強化。希望職種への就職内定率向上を図る。
- (3) 教育目標を達成させるために学校のビジョンの明確化とそれに伴う教育の充実
- (4) 広報体制の改革の継続。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価基準 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

#### (1) 教育理念・目標

##### 【評価項目】

- 学校の理念・教育目標がしめされているか。またそれらは現代の社会状況に即しているか  
④ 3 2 1
- 各科、各専攻の特色は示されているか  
④ 3 2 1
- 学校の将来構想を抱いているか  
4 ③ 2 1
- 学校の理念・教育目標・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか  
4 ③ 2 1
- 各学科の教育目標が社会参画へと繋がっているか  
④ 3 2 1

##### 〈課題〉

各専攻の特色に即したカリキュラムへの見直し。

学生自ら掲げた目標へ到達できるためのサポート強化。

デジタルイラストレーション分野の教育強化。

キャリア教育の強化。

##### 〈今後の改善方策〉

基礎課程カリキュラムの改革を図る。

##### 〈特記事項〉

次年度より基礎カリキュラムをファインアート科とビジュアルデザイン科に分けて実施。

(2) 学校運営

【評価項目】

- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか  
4 ③ 2 1
- 運営組織や意思決定機能は、明確化されているか、有効に機能しているか  
④ 3 2 1
- 人事、給与に関する規程等は整備されているか  
④ 3 2 1
- 意思決定システムは整備されているか  
④ 3 2 1
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか  
④ 3 2 1
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか  
4 ③ 2 1

〈課題〉

教育内容等に関する認知度を高めるための活動を活発にする。

〈今後の改善方策〉

アトリエの効率化を推進。

〈特記事項〉

中長期事業計画の明確化。BCPの再考。

25年度より「ファインアート科」に『クリエイティブイラストレーション専攻』を新設。ビジュアルデザイン科の「イラストレーション・絵本専攻」を「イラストレーション・コミック専攻」に改める。

(3) 教育活動

【評価項目】

- 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか  
4 ③ 2 1
- 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか  
4 ③ 2 1
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか  
4 ③ 2 1
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発など

が実施されているか

④ 3 2 1

- 関連分野における実践的な職業教育（産官学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか

④ 3 2 1

- 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか

④ 3 2 1

- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件が体系的な位置づけにあるか

④ 3 2 1

- 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか

④ 3 2 1

〈課題〉

地域を中心とした産官学連携授業をさらに強化する。

生活しながら、制作を続けるために必要な知識を身につけることの重要性の理解を高める。

学外の活動を通して自分の能力と他者との関係性を理解する能力の育成。

制作を通して、自ら問題を発見し解決する能力の育成を強化。

習得した知識や技術を自分が属している社会とどう結びつけるか常に思考する習慣の育成。

〈今後の改善方策〉

就職指導の内容の見直しの継続。

本校の特徴と育成方針の見直しと明文化を図る。

〈特記事項〉

就職講座、フリーランス講座をはじめとしたキャリア講座の充実。

#### (4) 学修成果

【評価項目】

- 就職率を向上させるためのサポート体制は図られているか

④ 3 2 1

- 学習成果が作家活動の継続や希望する就職へと繋がっているか

4 ③ 2 1

- 退学率を低減するための施策は図られているか

④ 3 2 1

- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

④ 3 2 1

〈課題〉

希望職種への就職内定率向上。

1年次より社会や就職に対する意識向上を図る必要がある。

就職活動を早期から意識、行動させる指導、強化が必要。

〈今後の改善方策〉

就職希望者の卒業年3月までに就職内定を決める。

卒業生との交流の場の再開。

サポートが必要な欠席気味の学生の情報共有方法の改善。

#### (5) 学生支援

【評価項目】

○ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか

④ 3 2 1

○ 学生相談に関する体制は整備されているか

④ 3 2 1

○ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

④ 3 2 1

○ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

4 ③ 2 1

○ 課外活動に対する支援体制は整備されているか

④ 3 2 1

○ 学生の生活環境への支援は行われているか

4 ③ 2 1

○ 保護者と適切に連携しているか

④ 3 2 1

○ 卒業生への支援体制はあるか

4 ③ 2 1

○ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか

4 ③ 2 1

〈課題〉

メンタルヘルスに問題を抱える学生の増加に対する対応強化と保護者との連携の強化。

〈今後の改善方策〉

業界、外部関係者と連携を図りながら学生支援、就職支援の強化を図る。

支援が必要な学生に対して、担当者を明確にし、より細やかなサポートを行う。

〈特記事項〉

卒業生からの就職・転職相談を常時実施。

集団での制作が困難な学生に対する支援として自宅での制作を認め指導・評価している。

(6) 教育環境

【評価項目】

○ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

4 ③ 2 1

○ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

4 ③ 2 1

○ 防災に対する体制は整備されているか

④ 3 2 1

〈課題〉

求人先会社との連携の強化。

〈今後の改善方策〉

アトリエの効率的な使用。

PC、及び周辺機器など、最新機器の充実。

〈特記事項〉

令和6年5月より大規模改修工事が行われている。

(7) 学生受入募集

【評価項目】

○ 学生募集活動は、適正に行われているか

④ 3 2 1

○ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

④ 3 2 1

○ 入学選考の時期、基準、方法は適正に行われているか

④ 3 2 1

○ 学納金は妥当なものとなっているか

4 ③ 2 1

〈課題〉

教育内容等に関する認知度を高めるための広報、渉外活動をさらに活発にする必要がある。

〈今後の改善方策〉

学校訪問、出張授業の拡充。

指定校推薦の拡充。

オープンキャンパスの実施日の増加。

(8) 財務

【評価項目】

○ 中、長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

4 ③ 2 1

○ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

④ 3 2 1

○ 財務について会計監査が適正に行われているか

④ 3 2 1

○ 財務情報公開の体制整備はできているか

④ 3 2 1

〈課題〉

令和6年度の本課程新一年生は定員を確保できたが、令和7年度・8年度入試においても定員を確保し、本課程3学年全体での定員充足。

〈今後の改善方策〉

物価上昇による経費増加に対し、授業料の値上げの検討。

〈特記事項〉

夜間帯を利用した、教育事業を立ち上げ全体の収入を増加させることを検討中

(9) 法令遵守

【評価項目】

○ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

④ 3 2 1

○ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

④ 3 2 1

○ 学校評価の実施と問題点の改善を行っているか

④ 3 2 1

○ 学校評価結果を公開しているか

④ 3 2 1

〈課題〉

学校評価においては、今後第三者評価による点検を推進することが課題。

〈今後の改善方策〉

特に無し。

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】

○ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

④ 3 2 1

○ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

④ 3 2 1

○ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか

4 3 ② 1

〈課題〉

科や専攻、学年を越えて多くの学生が参加できる社会貢献・地域貢献活動を企画していく。

〈今後の改善方策〉

企画ごとに、より多くの学生が参加できるシステム(周知及び募集)の構築。

〈特記事項〉

豊島区アート・カルチャー学生大使の登録及び活動のサポート強化、学生会との連携を図っている。

アフターコロナにおける社会貢献、地域貢献の再開により年間数多くの企画に参加。

日本デザイン団体協議会(D-8)との連携による、デザイン団体との協力校認定や学生コンペへの参加

#### (11) 国際交流

【評価項目】

○ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

4 ③ 2 1

○ 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか

4 ③ 2 1

○ 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか

4 ③ 2 1

〈課題〉

留学生の管理機能の強化

留学生による学生モラルの低下が一部見受けられる。

学生の意識に国際交流の必要性が薄れている。

〈今後の改善方策〉

留学生の受け入れを縮小傾向に転換する。

海外アーティストの招聘は最小限にとどめる。

〈特記事項〉

メキシコベラクルス州立大学より招聘したアーティストの展覧会と講演会の開催予定。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

### (1) 教育評価

本校は建学の精神に基づきながら、連綿と続く保存すべき伝統と、常に変化している社会と共にあるものを見極めながら、その時代の中での、社会人としての自覚、責任を抱き、自己実現を求め成長を続けることができる人材育成に努めている。

そのためには、専門知識・技術のみならず、思考法やプランニング能力、マネジメント力などの習得と共に、造形教育の根底にある問題解決能力を高めることを目指している。

また、予測できない時代の変化の中で、自分らしく生き抜いていくためには、自明の理ではあるけれど、教育する者の基本に立ち、学生の個性を伸ばし、画一的な人材ではなく、より際立った特徴を持ち、常に社会に必要とされる人材育成へ励む必要がある。

また、時代の流れとニーズに応え、リカレントおよびリスキリング教育における企画の充実に向けた再考を図る必要がある。

### (2) 財務評価

本課程の募集が定員を充足。そのため財政面を支えていた研究科応募の留学生の学生を抑制することができた。長期的な展望に立ち留学生に頼らない本来の本課程の学生への教育活動の提供を中心に据える目処が立ったと言える。

### (3) 自己評価

選択希望者が多いイラストレーション・絵本専攻の学習内容をより明確にするために、2025年度からファインアート科にアナログ表現を主体としたクリエイティブイラストレーション専攻を、ビジュアルデザイン科にデジタル表現を主体としたイラストレーション・コミック専攻を設置する。これにより多様なイラストレーションというジャンルに、より専門性をもったカリキュラムの確立と差別化を図る。またこれらは将来のイラストレーターとしての具体的な仕事をイメージした専攻選択につながるものとする。

就職活動においても、「就職偏差値の向上」という目標を掲げ、単なる就職内定にとどまらず希望する職種（美術・デザイン業界）への就職に向け指導・支援にあたっている。

一方で、作家活動を中心に捉える学生に対しては、活動の継続、発展のためのノウハウや社会人として生きていくために必要不可欠な知識を身につけるためのより実践的なフリーランス講座を開講。美術活動がより現実的で社会的位置を有していることを実感する上で高い意義があると考えている。

## 5. 学校自己評価委員の評価結果について

上記報告書は、創形美術学校自己評価委員として、妥当な評価であることを確認し、認めます。

創形美術学校評価委員 令和6年6月14日

高澤学園 理事 創形美術学校 学校長 樋口恭一

高澤学園 理事 創形美術学校 副学校長 工藤礼二郎  
ビジュアルデザイン科主任 田中北斗  
創形美術学校 事務長 田村和稔